

第45回 全日本おかあさんコーラス 埼玉県大会 一般入場なしで開催



3月5・6日の二日間にわたって開かれた第45回全日本おかあさんコーラス埼玉県大会が無事終了しました。2020年、2021年と続けて中止となりましたが、今回は一般客なし、更衣室なし、不織布マスク着用ではあったものの、可能な限りの感染対策を講じて開催されました。

この大会は、1978年8月「全日本ママさんコーラス大会」として発足し、1980年の第3回から「全日本おかあさんコーラス大会」となりました。埼玉にとっては今回が第47回おかあさんコーラス埼玉県大会に当たります。また、今回の埼玉県大会が今年度全国で最初に行われた大会になるとのことです。

クッキー会揃って「プラチナ混声」でオンステ!

(招待演奏) 彩の国プラチナ混声合唱団

指揮 小野瀬照夫/ピアノ 持田みどり

混声合唱曲集『かなしみはあたらしい』より

未来へ 谷川俊太郎 作詩/信長貴富 作曲

この合唱団は、おかあさんコーラス大会と4月に長野県伊那市にて開催される「信州アルプスシニア合唱祭ゴールドウエーブin伊那」に出演するために集まったイベント合唱団です。小野瀬理事長のもと80名もの大合唱の練習はとてもエキサイティングで、とくに女声合唱団で歌っているメンバーは男声が支えてくれる混声のハーモニーも楽しんでます。伊那でも楽しく歌ってまいります。

本日は、人数制限のために2回に分けて演奏いたします。この曲を信長さんに委嘱した三沢事務局長もギターで華を添えてくださいます。お楽しみに!(プログラムより)

彩の国プラチナ混声合唱団は、招待演奏で信長貴富作曲「未来へ」を演奏しました。和光市民文化センター側の方針でオンステが40名に限定されたため、女声を20名ずつの半分に分け、男声はそのまま両方に入る形で二チームを作りました。本番では続けて2回演奏するという珍しいステージです。

1回目は男声が中央・ソプラノ下手・アルト上手、2回目は下手からソプラノ、アルトと並び、男声を上手に

配置することで演奏効果のちがいを確認する機会にもなりました。どちらか良かったほうの配置で信州の大会に臨む予定です。

今回のプラチナ混声では、この『おんがく広場』発行元のクッキー会メンバー5人が全員揃って歌う初めてのステージとなりました。あらためメンバーを紹介します。

クッキー会

◆江川善裕: 全日本吹奏楽連盟事務局主事/全日本合唱連盟事務局次長歴任・国際合唱連合理事・日本サクソホン協会会員・鷲宮ウインドアンサンブル他指揮者

◆新祖章: 埼玉県合唱連盟理事/事務局長/副理事長を経て現在参与・全日本合唱連盟関東支部事務局長・元埼玉第九合唱団団長

♡南めぐみ: 埼玉県合唱連盟常務理事・コーラル・ソシア/T.friends指揮者

◆星野英明: 男声あんさんぶる「ポパイ」

◆加藤良一: 元埼玉県合唱連盟理事/男声合唱プロジェクトYARO会主宰・男声合唱団ヴィヴ・ラ・コンパニー/男声合唱団コール・グランツ団長

消毒と殺菌ってどっちがうの? その2

前回、消毒は病原微生物の数を減らし「中毒や感染症を引き起こさない水準」にまで殺滅または減少させること、殺菌とは特定の菌を殺す(菌数を減らす)ということについて確認しました。

今回は、さらに別の概念についても調べてみます。身の周りの商品に記載されている用語を正しく理解し、その効果をよく把握した上で感染症対策に生かしましょう。

静菌: 微生物を死滅させはしない(菌数は減らない)が発育や増殖を抑えた状態にすること。この状態では放置すればまた発育や増殖が始まる可能性があります。

除菌: 微生物を取り除き、菌数を減らすこと。フィルタでろ過する方法等が該当します。ただし、殺菌することも除菌に含まれますが、医薬品や医薬部外品以外では「殺菌」をうたえないので、除菌として表示されています。

抗菌: 微生物の増殖を阻害することであればすべて抗菌といえます。つまり、殺菌や除菌のように直接微生物を殺したり取り除いたりすることより、単に微生物の活性を阻害することです。

除染: 化学薬剤を気化または噴霧することで微生物を一定の数値まで下げること。

不活化: 微生物を熱、紫外線、薬剤などで死滅させた状態をいう。かなり広い概念です。

